

## 267 運動負荷心筋シンチグラフィにおけるrapid washout rateの解析

山上英利、西村恒彦、林田孝平、植原敏勇、三谷勇雄、汲田伸一郎、起塚裕美(国循セン・放診部)

運動負荷心筋シンチグラフィにおけるwashout rateが正常上限(mean+2 SD:60%)を越えるrapid washout rateを呈する症例につきその要因を検討した。対象は最近約3カ月間に運動負荷心筋シンチグラフィを施行した連続229例である。washout rateは、初期分布における肺野Tl摂取率と負の比較的強い相関を示し、負荷時の最大心拍数と正の弱い相関を示した。diffuseにrapid washout rateを呈した症例は13例(5.7%)であり、女性が54%を占めた(対象症例中の女性の割合は22%)。さらに、高脂血症、慢性腎不全、PTCA、ACBG後の症例に多くみられた。

## 268 局所心筋タリウムクリアランスについての臨床的検討 第二報: 正常冠動脈例でのベージングによる欠損部の経時的变化からの検討

尾崎正治、松村和彦、山岸 隆、古谷雄司、山本浩造、斎木 淳、佐藤信一、楠川礼造(山口大 二内科)

我々は21回(1981.10)での本学会で局所心筋のタリウムクリアランスは、局所心筋血流量のみでは規定されないことを報告したが、今回は正常冠動脈例において、右室内高頻度ベージング時にみられる非虚血性欠損像での経時的变化からの検討を行った。10名の正常冠動脈例に毎分150回のベージングを4分間行い、終了一分前にタリウムを急速静注した。静注後 10、30、60、120、240分にてイメージングを行なった。心室中隔(IVS)にTlの低下がみられ、同部のクリアランスも低下し、両者の関係より、前回と同様に、クリアランスは初期濃度に影響されるとの結果を得た。

## 269 運動負荷タリウム心筋シンチグラムにおける負荷後の心拡大像の検討

杉原洋樹、片平敏雄、志賀浩治、稲垣末次、中川達哉、窪田靖志、勝目 紘、中川雅夫(京都府立医科大学 第二内科)、山下正人、岡本邦雄(同RI室)

運動負荷タリウム心筋シンチグラムにおいて、直後像が3時間後像に比し、視覚的に心拡大を呈する例が存在する。この拡大所見を定量的に評価し、冠動脈造影所見と対比検討した。方法は、負荷時および3時間後のタリウム心筋SPECT短軸像において、中心からの10度毎の放射状直線上の各最大カウントの点で囲まれる面積を求め、負荷時面積/3時間後面積(EX/RD)を算出し、負荷による拡大所見の指標とした。多枝病変例ではEX/RDの増加する傾向がみられ、虚血の診断の一助となると思われる。本現象の原因として、虚血による心拡大の遷延あるいは広範な心内膜下虚血を推定した。

## 270 Tl-201負荷心筋シンチグラムにおける、いわゆるDiffuse slow washout rate(DSWR)に関する検討

宮下岳夫、池部伸彦、永井義一、穂坂英明、青木 真、中川規夫、妻木奈々恵、山澤淳宏、伊吹山千晴(東京医科大学第二内科)村山康弘(同放射線科)

負荷心筋シンチグラムにおいて、いわゆるDSWRを示す症例を経験する。この臨床的意義を検討する目的で、mean-WR 30%以下を示した症例につき、運動負荷時のparameter、SPECT所見、CAG所見を比較した。対象は心筋梗塞123例(MI群)、狭心症78例(AP群)非典型的胸痛例197例(R/OIHD群)の合計398例である。結果:32例(8.04%)に、DSWRが認められた。OMI,AP群では、SPECT異常率が高く、低負荷量で、多枝病変が多かった。R/OIHD群には、SPECT上正常で、負荷量も十分の症例が含まれていた。IHDが否定的で、負荷量も十分な症例にもDSWRを示す場合があり、今後の検討を要する。

## 271 運動負荷心筋シンチグラフィおよび心プールシンチグラフィにおける肺野情報の検討

山崎行雄、中塚俊明、唐木章夫、佐野孝彰、古川洋一郎、清水正比古、富谷久雄、竹田 賢、斎藤俊弘、稲垣義明(千葉大学医学部第三内科)

今回我々は冠動脈病変を確認し運動負荷Tl-201心筋シンチグラフィ(Tl-Ex)および運動負荷心プールシンチグラフィを施行した50例を対象とし、負荷直後の肺野Tl集積と、運動負荷時の肺動脈圧、左室駆出分画、および運動負荷時の安静時に対する肺野Tc活性の増加率(肺血液量増加率)を含む心機能諸指標との関係を調べた。その結果、肺野集積陽性群は陰性群に比し、負荷時の肺動脈圧が高く、安静時および負荷時のEFが低く、肺血液量増加率が大きかった。すなわちTl-Ex肺野集積所見は肺血液量の増加および左心機能障害を反映していることが明らかとなった。

## 272 運動負荷心筋SPECTに於ける Reversed Redistribution:RRに関する検討

矢坂義則、山辺 裕、名村宏之、吉田裕昭、北瀬裕敏、前田和美、福崎 恒(神戸大学第一内科)

CAD患者でのEx-Tl心筋SPECTでみられるRRの成因を知る目的で314例(PTCA群46例、非PTCA群268例)を対象に検討した。RRは18例:5.7%にみられ、PTCA群8例:17.4%、非PTCA群8例:3.0%とPTCA群で高頻度であった。非PTCA群は全例多枝病変例で、99%以上の高度狭窄を伴うものが多かった。病変部のWRは23.6%と低下し、これが正常部でのRR発現の原因と思われた。PTCA群のRRは1例を除き拡張冠流域下に出現し、同部のWRは正常部に比べ高値であった。壁運動は軽度障害を残しており、障害心筋への充分量の灌流がWRを高め、RRの成因となっているものと考えられた。